

阿蘇地域でのトマトキバガ一斉防除の取組みと結果

昨年10月に阿蘇地域で国内初確認となったトマトキバガについて、管内のトマト、ミニトマトの約71ha、参加農家277戸で一斉防除に取り組みました。

この一斉防除は、令和4年度重要病害虫まん延防止対策事業（国消費・安全交付金）を活用しJA阿蘇が事業主体となり、6～9月の実施期間中、月1回1週間の防除期間を定め一斉防除を行ってきました。その結果、農業研究センターが設置した阿蘇市と南阿蘇村のトラップ調査では、トマトキバガの誘引が続きましたが、葉の食害痕を含め被害は確認されませんでした。

誘引状況を見てみると、阿蘇地域では、9月中旬頃から稲刈りが始まり、トマト栽培も終盤となり農薬散布回数が少なくなるため、誘引数の増加がみられません。また、最低気温が10℃を下回るようになる10月下旬からは、誘引数の減少がみられます。

以上のことから、トマトキバガに対する農薬散布の効果は高いものがあり、定期的な農薬散布が重要であることが改めて認識されました。

